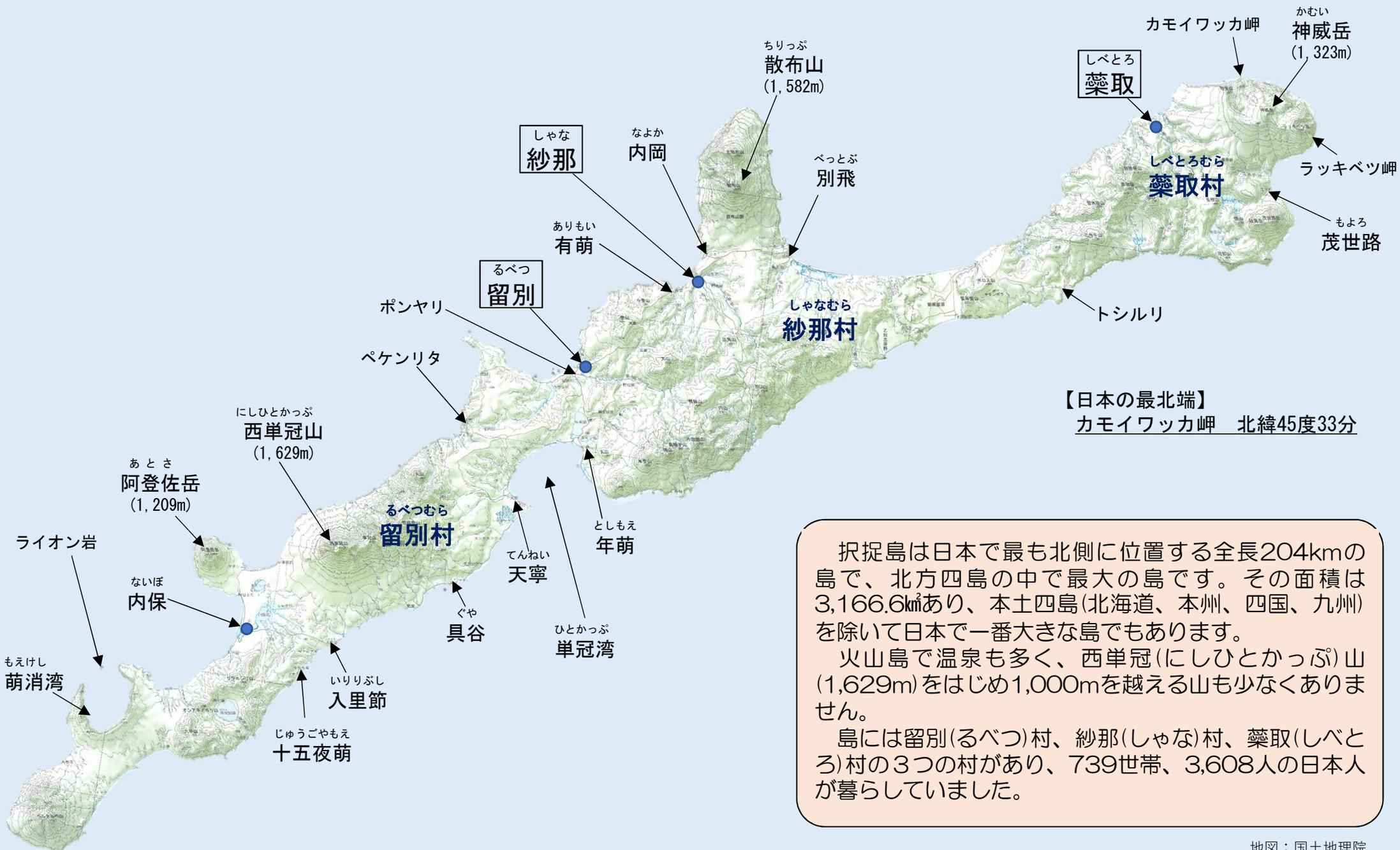


択捉（えとろふ）島 ～日本で一番大きな島～



【日本の最北端】
カモイワッカ岬 北緯45度33分

択捉島は日本で最も北側に位置する全長204kmの島で、北方四島の中で最大の島です。その面積は3,166.6km²あり、本土四島(北海道、本州、四国、九州)を除いて日本で一番大きな島でもあります。

火山島で温泉も多く、西単冠(にしひとかつぶ)山(1,629m)をはじめ1,000mを越える山も少なくありません。

島には留別(るべつ)村、紗那(しゃな)村、薬取(しべとろ)村の3つの村があり、739世帯、3,608人の日本人が暮らしていました。

当時の択捉島

しゃな るべつ しべとろ

択捉島は3村（紗那村、留別村、薬取村）で行政が行われていました。それぞれの役場を中心に市街地が形成され、行政や経済の中心地となっていました。

択捉島には14の港湾があり、漁業がとても盛んでした。なかでも盛んだったのはサケ・マス漁で、他の漁が不振でも サケ・マスで穴埋めできたそうです。また、内岡港なよかや年萌港としもえは、捕鯨基地として有名で、島の人たちの暮らしと大きな関わりを持っていました。捕鯨場の周りには、加工場や缶詰工場がたくさん並び、時期になると、多くの人たちで賑わい、大変な活況をみせていたそうです。



しゃな
紗那市街



るべつ
留別村市街



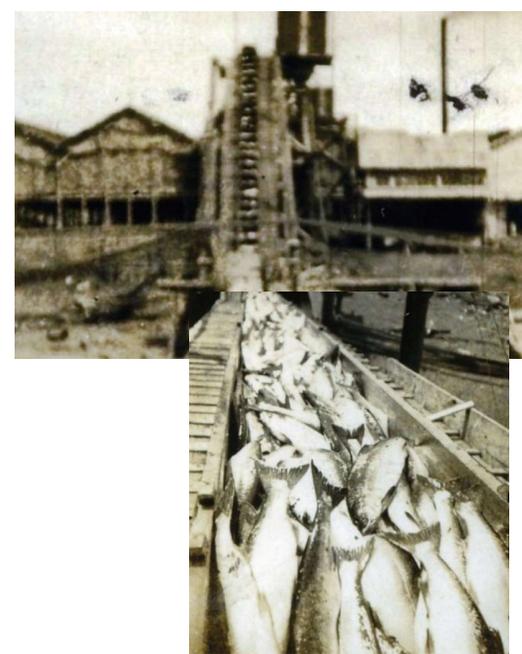
しべとろ
薬取村市街



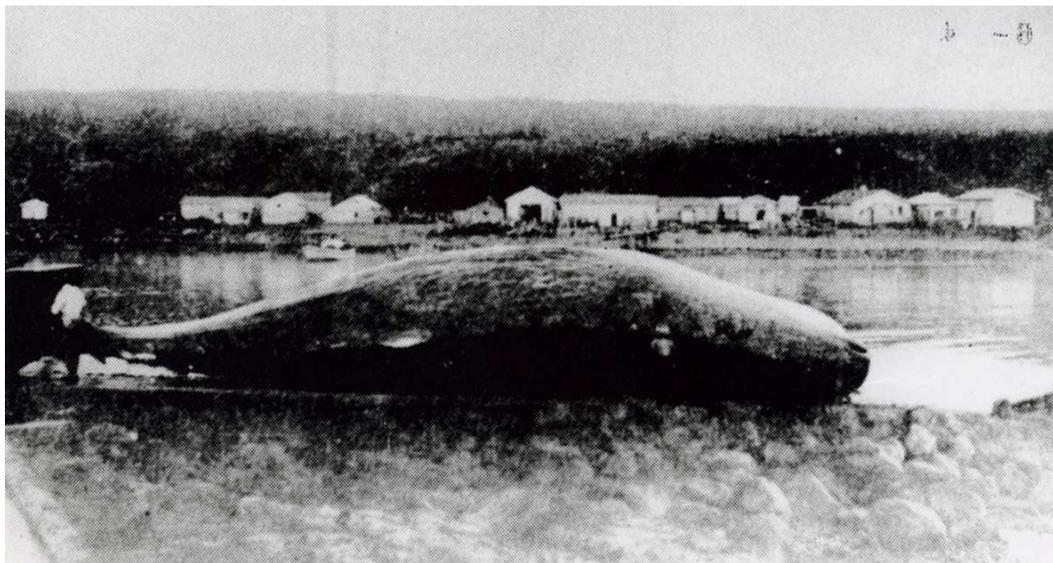
マスの網引き



サケマス水揚げ



サケマス加工場



なよか
内岡捕鯨場



鯨の解体作業



1800年カモイワッカ岬に
「大日本恵登呂府」の
標柱建立

ラッキベツの滝
落差140mは日本最大



択捉島最高峰「^{にしとわかづ}西単冠山」1,629m (2018年6月撮影)



^{しやな}紗那のサケマスふ化場は今も現役
(2018年6月撮影)



海霧の中のライオン岩
(2019年7月撮影)



^{あとさぬぶり}夕映えの阿登佐岳 (2019年7月撮影)

現在の択捉島

しゃな

紗那にクリル地区行政府があり、択捉島と千島列島を管轄しています。ギドロストロイ社という一大企業があり、漁業・水産加工業を基盤に運輸・観光・銀行などの事業を展開しています。

なよか

特に近年は、高級ホテルや温泉健康複合施設の建設、紗那と内岡を結ぶ遊歩道の整備など、観光産業に力を入れている様子が見えます。



しゃな
←紗那の水産加工場



商店



温泉施設



高級ホテル「庭園」